

## 当院における肝炎医療コーディネーターとしての検査技師の役割

◎徳永 実紗<sup>1)</sup>、石川 未希<sup>1)</sup>、井田 祐子<sup>1)</sup>、岩下 みゆき<sup>1)</sup>、竹間 英理<sup>1)</sup>、久保山 美奈子<sup>1)</sup>、池田 悠悟<sup>1)</sup>、光井 朋子<sup>1)</sup>  
福岡大学筑紫病院<sup>1)</sup>

【はじめに】我が国での肝炎の多くはB型またはC型肝炎ウイルスに起因するとされ、ウイルス性肝炎は放置すると慢性化し肝硬変や肝がんに行進するおそれがあるため早期発見・早期治療が重要と言われている。福岡県では久留米大学病院に設置された福岡県肝疾患相談センターを中心として肝炎対策が行われ、肝炎に対する受検・受診推奨や検査後のフォローアップを目的として肝炎医療コーディネーターの養成が進められている。

【経緯】福大筑紫病院は福岡県肝疾患専門病院であり、検査部では2017年より肝炎医療コーディネーターの資格の取得を進め、2022年4月時点で8名の肝炎医療コーディネーターが在籍している。当院では以前から消化器内科により肝炎対策が行われてきたが、肝炎ウイルスマーカー陽性者の拾い上げが十分とは言えなかった。また、検査部では検査結果を主治医へ報告するのみで専門医への受診を促すなどの対策は行っていなかった。

【方法】2021年に消化器内科より肝炎ウイルスマーカー陽性者の抽出の依頼を受けたことをきっかけに、検査部

と肝臓専門医が連携し肝炎ウイルスマーカー陽性者の早期治療を勧める肝炎対策を開始した。臨床検査システムHOPE/LAINS-GXを使用し1ヵ月毎の陽性者を抽出し、電子カルテシステムHOPE/EGMAIN-GXで陽性者の消化器受診の有無を確認、消化器内科未受診の陽性者のリストを作成し肝臓専門医へ報告。報告を受けた肝臓専門医は主治医に連絡し消化器内科への受診を促すという運用を行った。

【効果】検査部が介入する前と後での陽性者の紹介受診率を比較すると、介入前20%が介入後41%と改善が認められた。

【まとめ】活動を始めてから1年ではあるが、効果が認められた。今後も肝臓専門医と連携をはかり、検査を依頼した専門医ではない医師に陽性者の受診の必要性を理解してもらえよう活動を続けるとともに、多職種への肝炎医療コーディネーターの普及を推進し病院全体で取り組んでいくことで効果が認められると考える。

福岡大学筑紫病院臨床検査部 092-921-1011